

[総合的な学習の時間]

郷土愛を育み、自己の生き方や将来について考える単元開発

－佐渡学にキャリア教育を位置付けた単元開発と児童の変容－

長谷川亜耶*

1 はじめに

(1) 児童の実態と主題設定の意図

本学級の児童は、男子4名・女子4名、計8名の小規模学級である。児童は、園児期から生活を共にしており、互いの性格やよさをよく分かって、1人1人の結びつきが強く学級全体の仲の良さにもつながっている。しかし、この結びつきが強いため、見知った友達の前では堂々と活動できるが、他学年の児童の前や見学先などでは、恥ずかしさや不安から萎縮してしまう傾向にある。慣れた場や人の前では自分の思いや考えを伝えられるが、他の場では自分の力が発揮できない実態を受け、変化が激しいこれからの「社会を生き抜く力」の育成を図る必要を感じた。また児童は、将来的な自立のために知識を蓄え、自己の可能性を広げていくという意識が弱い傾向が見られる。何のために学ぶのか、自己の未来像が描けず、生き方の目標をもてずにいる実態がある。

このような姿から、児童に自己の将来を考え、自己実現のために何をどう頑張っていくか生きる目標をもってほしいと願い、本研究に取り組んだ。

次に、勤務校がある佐渡島は、歴史的な背景をもとにした伝統文化や美しい自然を誇る土地である。しかし、本学級の児童は、佐渡に生まれたにもかかわらず、郷土「佐渡」のことをよく知らない実態がある。例えば、「佐渡金山」に訪れたことがない児童が、8名中5名もあり、佐渡の遺産や地域の特色に触れる機会が無いことが分かった。

佐渡市では、平成26年度の佐渡市学校教育の重点に、「キャリア教育・佐渡学充実」という目標を掲げた。これは、児童に佐渡の素晴らしさを知ってもらい、郷土を愛する児童を育てたいという願いがある。また、職場見学・体験活動を通し、勤労観・職業観を育むねらいがあり、若者流出による人口減少の問題や今後の人材育成の課題が背景にあると考えられる。

平成26年度「新潟県教育振興基本計画」の6つの基本方針と27の施策の展開方向の中に「郷土愛を軸としたキャリア教育の推進」が明記されており、平成26年度「学校教育の重点」では、キャリア教育の重要性が説かれている。

そこで、「郷土を愛し、夢と誇りをもち、自立を目指すこども」を育てるため、5・6年生の総合的な学習の時間で実践を行うことを考えた。「佐渡学」の実践に、「新潟県教育振興基本計画」II-8の「郷土愛を軸としたキャリア教育の推進」に準じてつくられた新潟県教育委員会の「新潟っ子プラン」とを関連付け、育む力を明確にすることに取り組み、「社会を生き抜く力」を身に付けられるようにした。ここでは、児童の社会的・職業的な自立に向け、①郷土愛②人間関係形成・社会形成能力③自己理解・自己管理能力④課題対応能力⑤キャリアプランニング能力の5つの能力を育成する必要があるとしている。このキャリア教育の視点を単元計画に明記し、どのような力を育成するかを明確にして取り組むことで、児童の郷土愛を育み、自己の生き方や将来について考える力の育成につながるのではないかと考えた。

(2) 「佐渡学」についてのこれまでの取組

佐渡を舞台にした総合的な学習の取組には、佐渡金山の歴史、トキの生態と環境と学区の特色を生かした実践が進められてきた。しかしそれらは、地域の歴史や産業を学び、発信することに留まり、児童の自己の内面との対峙を経て、自己の生き方を考える活動には至っていなかった。そこで、郷土愛を育む「佐渡学」の活動を「新潟っ子プラン」の能力概念と関連づけ、キャリア教育の中核として社会的・職業的な自立に必要な能力や態度を育成することで、郷土を知り、「郷土を愛する力」と「社会を生き抜く力」の育成がなされるか検証する。

* 佐渡市立河崎小学校

2 研究の目的と方法

本研究では、5学年時の佐渡の伝統文化を伝える人や新たな産業を興している人などの「佐渡のすごい人・もの」を探す活動から、生まれ育った地域のことを知る。そして、佐渡で活躍する人や有名なものに携わる人々にインタビューをすることを通して、ものの考え方や人生の歩みなど人々の生き方に学ぶ。これを発展させ、6学年時では、新潟県内の「きらり輝く人探し」をし、修学旅行と関連させて、調べた人々に出会う活動を行う。そうすることで、佐渡だけでなく、新潟県に対する郷土愛も生まれると考える。そして、職業人として生き生きと仕事をしている人々に出会い、自己の将来や生き方について考える単元開発ができると考えた。

以上の理由から、次の研究テーマを掲げた。

佐渡や新潟で活躍する人々とかかわる活動を通して、郷土愛を育み、自己の生き方や将来について考える単元開発
研究テーマに向けて、次のような内容で取り組む。

- (1) 「新潟っ子プラン」での位置づけと能力概念を明確にした指導計画の作成
 - (2) 各活動後による児童の感想文やお礼の手紙の中の学びの分析と評価
 - (3) 自己のイメージを具現化するための他教科との横断的な取り組みとして、図工「12年後のわたし」の単元開発
- 本研究は、郷土愛を育み、自己の将来について考える単元開発を行うものであり、単元計画に基づいた実践を重ね、①単元における児童の活動や反応、②児童の実践後のふり返りや姿の変容から、どのような社会的・職業的な能力や態度が育成されたか検証する。

3 指導計画

(1) 活動名

「佐渡のすごい人・もの探し」(5学年) 「きらり輝く人を訪ねて」(6学年) 「将来の夢実現への道筋」(6学年)

(2) 活動の目標

- ・佐渡の伝統文化を守っている人々や新たな取り組みを行い、町興しを行っている人々を進んで探そうとしている。
- ・出会った人々にインタビューすることを通し、相手の考え方や生き方を受け止め、自己の人生や将来について考えている。
- ・佐渡や新潟県に対する郷土愛をもち、地域に誇りをもつ。

(3) 指導と評価の計画

本実践「佐渡のすごい人・もの探し」と「きらり輝く人を訪ねて」「将来の夢実現への道筋」の活動構成および「新潟っ子プラン」をもとにした育てる能力概念の位置付けは以下の通りである。

学年	月	◎活動名 ○活動内容 ・具体的な取り組み	新潟っ子プランでの位置付けと能力概念
5 年 生	1月	◎知っている？佐渡のすごい人やもの	
		○佐渡のすごい人やものを、思いつくものから出し合い、共有する。 ・家族にインタビューをし、児童だけでは出なかった人やものを取り上げる。 ・佐渡を紹介するパンフレットを活用し、佐渡の伝統文化や特産品について知識を広げる。	郷土への愛着 郷土愛 〈あい〉 愛着・交流
	2月	◎佐渡のすごい人・ものに会いに行こう	
		○インタビューをしてみたい佐渡のすごい人やものを決める。 ・どのような場所か、パンフレットやインターネットを活用して調べる。 ・見学するための交通手段を考え、行動計画を練る。 ・見学先に見学依頼の連絡をする。	課題対応能力 やり抜く力 〈いきる〉 実行・対応・遂行
	3月	◎佐渡のすごい人・ものに携わる人から、生き方を学ぼう	
		○佐渡のすごい人・ものに携わる人にインタビューをする。 ・見学を行い、その職業に就くことになった経緯や仕事に対するやりがいや大変さについて話を聞く。また、佐渡に対する思いや願いについてインタビューをする。 ・学んだことをまとめ、共有する。	人間関係形成・社会形成能力 かかわる力 〈ひと〉 挨拶・社交・協働

6 年 生	4月	◎知っている？ 新潟県のすごい人やもの ○新潟県が日本一と誇るものから考え始め、すごい人やものを思いつくものから出し合い、共有する。 ・社会科などで学習したことや社会科資料「わたしたちの新潟県」を参考に、新潟県の商業や産業に関心をもつ。 ・新潟県内の地域で発行されている産業や観光に関するパンフレットを提示し、新潟県の特産品や伝統的な物の知識を広げるとともに、どの地域のものかを知る。	郷土への愛着 郷土愛 〈あい〉 愛着・交流
	5月	◎きらり輝く人に会いに行こう ○「きらり輝く人」のとらえを話し合い、共有する。 ・修学旅行の班別行動で「きらり輝く人」に会いに行くことを知り、どのような人に会い、どんな話を聞きたいか考える。 ・見学するための交通手段を考え、行動計画を練る。 ・見学先に見学依頼の連絡をする。	課題対応能力 やり抜く力 〈いきる〉 実行・対応・遂行
	6月	◎きらり輝く人から、生き方を学ぼう ○きらり輝く人にインタビューをする。 [伝統を守り、新たな取り組みを行っている人] ・見学を行い、その職業に就いた経緯や仕事に対するやりがい・大変さについて話を聞く。また、今後の夢や職をどう発展させていきたいかインタビューする。 [自分の夢に向かって一生懸命に努力している人] ・見学を行い、将来就きたい職業を目指した時期やきっかけ、どのような経緯で大学または専門学校に通おうと考えたのかなどについて話を聞く。また、現在夢に向かってどのような取り組みをしているのかインタビューをする。その後、学んだことをまとめ、共有する。	人間関係形成・社会形成能力 かかわる力 〈ひと〉 挨拶・社交・協働 キャリアプランニング能力 夢おす力 〈みらい〉 役割・設計
	9月	◎ 私のみらいの“たね”を見付けよう ○佐渡にあるいろいろな職業をあげる。 ・将来像を考えるうえで、様々な種類の仕事や働き方があることを知る。また、様々な職業が身近にあることを確認する。 ○「友だちから見た私」の活動を行う。 ・自分の良さや可能性を友達に書き表してもらうことで、自分が知らなかった自分に気付き、肯定的な自己理解や自己有用感を獲得する。また、他者の個性を尊重する姿勢を醸成する。 ○「未来の種を探そう」の活動を行う。 ・自分の役割や特性を明らかにし、自己を生かせる仕事について考える。また、未来を考えるうえで必要な、自分なりの価値観や可能性に気付く。 ○「生き方トーク」 ・教育実習で来校した大学生に、小学校の時の夢と、現在の教師を志すまでの経緯や大学でどのようなことを頑張っているか話を聞く。また、話を聞いて、児童の現在の将来の夢やそれに向かってどのように取り組んでいくかを発表する。 ○「みらいキャッチフレーズを作ろう」 ・未来の自分をイメージし、言葉に表すことで、自らのありたい姿を明らかにする。	自己理解・自己管理能力 みつめる力 〈じぶん〉 肯定・選択・管理 キャリアプランニング能力 夢おす力 〈みらい〉 役割・設計・適性
		◎「将来の夢実現までの道筋」を調べよう ・インターネットなどを活用し、夢の実現のために必要な資格やその資格を取得するために通う必要がある学校などについて調べる。将来の具体的な見通しをもてるようにする。	キャリアプランニング能力 夢おす力 〈みらい〉 役割・設計・適性
	10月	◎「12年後のわたし」を想像しよう ○工作「12年後のわたし」を製作しよう。 ・今まで学習・体験してきたことをもとに、「12年後の私」をイメージし、紙粘土工作に表す。工作として具現化することで、具体的な将来のイメージをもったり、これからの人生に目的や楽しみを見出したりできるようにする。 ○工作「12年後の私」を展示しよう。 ・文化祭で、今までのワークシートとともに、工作を展示する。	自己理解・自己管理能力 みつめる力 〈じぶん〉 肯定・選択・管理

4 実践の概要と考察

(1) 「佐渡のすごい人・もの探し」(5学年時)の実践

① 実践の概要

「佐渡のすごい人・もの探し」の活動を通して、児童たちは「食で佐渡の町興しをした人」や「世界大会で優勝するソーセージを作る職人」、「伝統ある無名異焼きの窯元」「日本酒を造る職人」に出会い、話を聞きたいと考えた。見学では、「仕事でやりがいを感じることは何か」「これからどんな佐渡にしたいか」などを質問した。

② 見学先



図1 へんじんもっこソーセージでの聞取り



図2 長三郎鮎での聞取り



図3 無名異焼窯元での聞取り



図4 天領盃酒蔵での聞取り

③ 児童の感想(見学後の感想文やお礼の手紙より抜粋)

- 仕事の中で、自分たちがつくったソーセージを「おいしい。」と言ってもらえることにやりがいを感じるというお話がよく分かりました。他の国から見ても認められるものがあるというのが、佐渡のすごいところだと思いました。これから、佐渡がもっとにぎやかで観光スポットが増えるようにPRを頑張りたいです。
- 一番驚いたことは、外国で世界の人達とソーセージづくりで戦っているということです。世界の人達と戦うことでさえすごいことなのに、その上コンテストで優勝しているのだから、さらに驚きました。私は、佐渡をもっとアピールし、いろいろな人に知ってもらい、行きたいと思ってもらえるようなところになってほしいです。
- ぼくは、何度も味がおいしくなるようにあきらめずにソーセージをつくり続けたお話を聞いて、あきらめないでいろいろなことに挑戦したいと思いました。
- お話を聞いて、佐渡の海を大切にしていることがわかりました。ぼくは、佐渡の海がきれいなところがすごいと思います。ぼくは、これから佐渡の海をもっときれいにし、魚ももっとおいしくなるといいと思います。
- 私は、無名異焼とはどんな物なのか知りませんでした。見学をさせていただいて、初めてどんな物か分かりました。昔から伝わる焼き物があることを知って、佐渡のすごさを知ることができました。

④ 考察

【佐渡のすごさを感じている気付き 文中二重線部】⇒郷土愛

佐渡で作られている製品が世界で認められていることや、それを手がける人物がいることを知り、世界に誇るべきものがあることを感じる事ができた。また、佐渡の美しい自然が守られていることや、伝統工芸があることを知る事ができた。郷土についての見識が深まったといえる。

【こんな佐渡になってほしい・こんな佐渡にしたいという気付き 文中下線部】⇒郷土愛・夢おこす力

インタビューを通して佐渡のすごさに気付いたことで、より多くの人に佐渡のことを知ってもらいたいという思いをもつ事ができた。この気付きは、郷土について関心を深め、多くの人や場所に発信していくきっかけになる。

【生き方についての気付き 文中波線部】⇒自己理解・自己管理能力、キャリアプランニング能力

見学先で出会った人々の人生の歩みや困難なことにぶつかった時の考え方を聞き、自分の生き方を省みる機会となった。自分と他者を比較し、「こんな自分になりたい」という自己理解・自己管理能力が芽生えたと見取ることができた。

(2) 「きらり輝く人を訪ねて」(6学年時)の実践

① 実践の概要

児童との話し合いで、「きらり輝く人」の定義を、「将来の夢に向かって頑張っている人」「伝統を守りつつ、新たなものを作り出したり世界に発信したりしている人」とした。修学旅行で新潟・長岡方面に行くと知った児童は、新潟大学・国際調理製菓専門学校・三条の刃物・燕三条の研磨製品にかかわる人々に会い、話を聞いてみたいと意欲をもった。

見学先が決まると、児童の力で見学先までたどり着くために、交通手段を調べ、行動計画を練った。佐渡島内には電車がなく、バスに乗る機会も少ないため、時刻表や路線図の見方も重要な学びとなった。実際の見学では、「どのように進学先を考えたのか」「その職業を目指すきっかけは何だったのか」「これからどのように伝統工芸品が発展していったらいいか」などを真剣に質問した。

② 見学先



図5 新潟大学で学生との意見交換 図6 国際調理製菓専門学校での聞取り 図7 日野浦刃物工房での聞取り 図8 磨き屋一番館での聞取り

③ 児童の感想（修学旅行後の感想文やお礼の手紙から抜粋）

- ほくは、大学生の話聞いて、夢に向かってる人も、夢を探す人もいて、どちらも夢に向かって今、大学で頑張っているということが分かりました。
- 私は、将来何をするか迷っているの、将来の夢を決めるために大学に入ったと聞いて、そういう将来の決め方もあるのかということを知りました。
- 専門学校に入る時に、夢を決めている人は腕をさらに磨き、まだ夢が決まっていない人は、2年間かけて勉強し、進む道を決めていくことに驚きました。
- 包丁に模様を付けることができるのは、世界でただ一人であり、その人に会えたのでびっくりしました。包丁は1日に10本しか作れないことが分かり、とても難しく、大変だなと思いました。ほくは、伝統を守って頑張っているんだと感じました。
- 磨き屋一番館では、伝統を守り続けるために、後継ぎの人を見付けたり、観光客に磨き体験をさせて知ってもらったりしているのがすごいと思い、工夫しているなと感じました。

④ 考察

【進路の選択方法に関する気付き 文中下線部】⇒キャリアプランニング能力

将来の夢を実現させるために努力する人々には、将来の夢が決まっている人もいれば、進学して、知識・技能を学びながら将来就きたい職業を決めていく人もいることが分かった。これにより、自己実現の道を探るために進学する手段もあることに気付いた。この児童の気付きの中で最も重要なのは、ただ目的なく日常を過ごすわけではなく、自立へ向けた自己の職業観を自ら育てる態度が必要だということである。

【新潟県のすごさを感じている気付き 文中二重線部】⇒郷土愛

世界に誇れるような伝統工芸があることを知った。機械化による大量生産にたよらず、手作業でつくるこだわりがあり、伝統を基礎に新たなものづくりに挑戦し続けることの大切さを学んだ。また、伝統を守りながら人々に広めていくために後継者の育成や観光客への体験など工夫をして対応していることを知った。

(3) 「将来の夢 実現までの道筋」(6学年時)の実践

① 実践の概要

はじめに、佐渡には様々な職業が身近にあることを話し合った。その後、わたしの「みらいのたね探しをしよう」とした自己理解・他者理解の活動を行い、「自分のよさとは何か」「自分はどのようなことが好きか」「自分が将来、大切にしていきたいことは何か」「佐渡の中で好きなもの、残したいものは何か」を問うた。自己の未来像を描き始めた児童は、どのような資格を取得すれば将来の夢を実現できるのか、インターネットを活用して調べた。資格取得のためには、専門的な知識・技能が必要であることを知り、それを学べる進路について調べることができた。

② 児童の感想（ワークシートより抜粋）

- 画家になりたいと思ったけれど、画家だけでは、生活ができないことが分かりました。だから、美術の先生になり

仕事をしながら、絵を描き続けたいです。

- パン職人になる方法を知らないことが多く、仕事をあまくみていたけれど、今日調べてみて、将来就きたい職業を目指すには、いろいろなステップがあり、大変だなと思いました。
- 今まで、仕事をするには、資格が必要だとか考えたことがありませんでした。パティシエになるために必要な資格があることを知れてよかったです。

③ 考察

【「夢実現までの道筋」を調べる前の意識 文中下線部】

児童の感想から、仕事をするために必要な資格やその資格を得るために習得すべき内容や技術が漠然としていたことが分かる。つまり、夢実現までの道筋を調べる本時までの活動だけでは、児童が具体的な未来像を描けないことが分かった。

【道筋を調べた後の意識 文中二重線部】

児童の感想から、道筋を調べた後の意識改革が見られる。目指す職業に就くのは大変なことだが、どのような過程を踏めばよいか具体的に理解できたようだ。また、それを知ることができ、よかったと言及している。自分の未来像をより具体的に描くためには、自己実現のために何をどうやって頑張っていかなければならないのかを明確にすることが大切であると分かった。しかし、「将来の夢は変わってもよい」ということが大前提である。そのため、この活動は、目標をもつことができた時に、必要な資格や踏まなければならないステップを調べる方法を経験するという意味でも有効である。



図9 職業調べを行う様子

5 研究の成果と課題

郷土愛をはぐくむ「佐渡学」とキャリア教育「新潟っ子プラン」を関連付けて指導計画を作成することによって、児童にどのような力を付けさせなければいけないのか、教師自身が見通しをもって指導できた。また、能力概念が明確だったことで、子どもの感想文やお礼の手紙から子どもの学びを見取ることができた。児童は、5・6年生時の総合的な学習の時間を通し、調べる・見学する・インタビューする・まとめるの流れを繰り返すことにより、見通しをもって取り組むことができた。これに加え、5学年時より6学年時の方が質問の仕方や内容、まとめる仕方、自己の生き方との関連付けなどの質が向上した。さらに、様々な業界で一生懸命に生きる魅力ある人々と出会う機会を得たいという児童の意欲が増し、考え方の多様性、未来像の多様性を学ぶことにつながった。

キャリア教育の面では、自己理解・キャリアプランニング能力育成の取り組みを行ったことで、「将来、自分はどのような大人になりたいのか」という未来の自分像や、「どのような職業に就いて自立したいか」という職業観の素地を育成することができた。これをもとに、自己実現に向けた具体的な目標をもつことができ、児童に学ぶ意義や目的を感じさせることができた。

本実践では、「佐渡学」を軸に単元開発を行ったが、今後勤務する学校においても、郷土愛を育み、キャリア教育とつなげるにはどのような単元構成が考えられるか研究し、児童に生きる目標を与えられよう取り組んでいきたい。

【参考文献】

- ・文部科学省 「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」(平成20年8月4日取得)
- ・佐渡市教育委員会 「平成26年度 佐渡市学校教育の重点と施策概要」
http://www.city.sado.niigata.jp/sadokyouhp/sesaku_gaiyou/h26sesaku-gaiyou.pdf (平成26年8月4日取得)
- ・新潟県教育委員会 「平成26年度 学校教育の重点」
http://www.pref.niigata.lg.jp/HTML_Top2/1018/211/260512-juutenn%201-6.pdf (平成26年8月7日取得)
- ・新潟県教育委員会 「新潟県教育振興基本計画について」(平成26年8月8日取得)
<http://www.pref.niigata.lg.jp/HTML-Simple/988/82/shinkoukeikaku-gaiyou,0.pdf#search='%E6%96%B0%E6%BD%9F%E7%9C%8C%E6%95%99%E8%82%B2%E6%8C%AF%E8%88%88%E5%9F%BA%E6%9C%AC%E8%A8%88%E7%94%BB'>
- ・新潟県教育委員会 「新潟っ子をはぐくむキャリア教育のすすめ～新潟っ子プラン～」
http://www.nipec.nein.ed.jp/sc/careerstation/niigat_ko/index.html (平成26年8月8日取得)